

住環境向上への取り組み

防水工法による環境対策以外にも、次のような住環境向上への対策も採用しております。

外断熱工法による省エネ効果

建物に断熱材を採用することにより、冷暖房の効率向上による建物内の居住性が改善され、更に省エネルギー対策となります。1992年に「新省エネ基準」、1999年に「次世代型省エネ基準」が施行され、断熱材を組み入れることが推奨されています。（詳しくは P.64をご覧ください）日本アスは、省エネルギー効果と併せ、建物の長寿命化も視野に入れた、外断熱防水工法を採用しております。



シェーンボード

硬質ウレタン系断熱材

露出防水に使用し、防水層の下に施工します。

BKボードE

押出成形ポリスチレン系断熱材

保護防水に使用し、防水層の上に施工します。

遮熱塗料「プレクール」による屋上の温度低減効果

特長

■優れた遮熱性

太陽光に対する反射率の優れた着色顔料等により、遮熱性能を高めることを可能にしました。

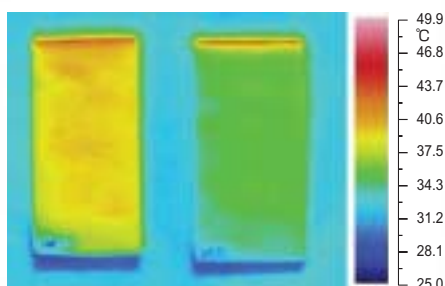
■環境に配慮

水性系樹脂をベースとしているので、中毒や火災の危険がなく環境にも優しい材料です。

アスファルト系防水材との馴染みもよく、塗替えも容易に行えます。

■防藻及び防カビ性があります。

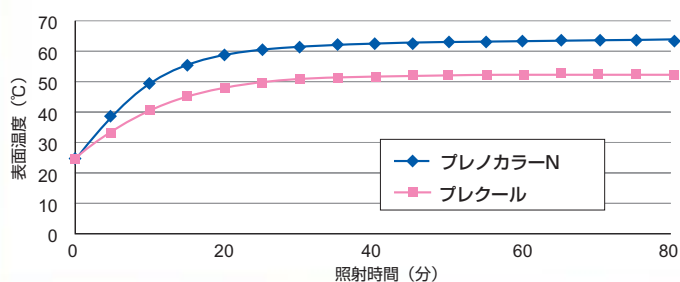
屋外検証（サーモグラフィー）



プレノカラーN

プレクール

室内検証



環境への取り組み

癒しのある 屋上緑化システム『カナート』

屋上防水の仕上げに、屋上緑化システム「カナート」を採用することが出来ます。

日本の気候・風土を考慮して設計・開発された「カナート」は、防水層を保護すること以外にも、住環境を向上させる面で様々なメリットを生みます。



- **建築物の保護**
防水層とともに建築物を保護し、耐久性を向上させます。
- **ヒートアイランド現象の緩和**
植物の蒸散作用により周辺気温を下げ、ヒートアイランド現象を緩和します。
- **大気の浄化効果**
植物が二酸化炭素やその他汚染物質を吸着します。
- **消費エネルギーの低減**
緑化による外断熱効果が、夏場の室内の温度上昇を軽減し、冬場の保温効果により、冷暖房に要するエネルギーを軽減します。
- **集中豪雨による水害抑制**
- **景観の向上、癒し効果**

詳細は P.46 を参照してください。

バリアフリーが可能な 乾式浮き床仕上げ『PFシステム』

屋上を機能的な空間として有効に活用することも、住環境を向上させる方法の一つです。

PFシステムは、樹脂製の支持脚“PFスタンド”と仕上げパネル類からなる乾式の浮床システムで、屋上を機能的なスペースとして活用することができます。



- 防水層や断熱材の上に直接施工することが出来ます。
- スタンドの高さは、17～700mmの高さで任意に調節できるので、バリアフリー対策等、自由なデザインが可能です。
又、仕上材の下部をフリースペースとして利用することも出来ます。
- 仕上げパネルには、コンクリート系、木質系とがあり、用途や好みに合わせて選択することが出来ます。
- 通常の押さえコンクリートと比べて軽量なので、建物にかかる荷重が低減されます。

詳細は P.44 を参照してください。